

しみずの教育

ちょっといい話

【平成30年1月号】

清水小学校

□「生命誕生のすばらしさ」を学んだ誕生学（6年）

12月15日（金）、誕生学アドバイザーの高田めぐみさんに来校いただき、誕生学の授業が行われました。

受精間もない受精卵の大きさが0.1mmであること、数週間で米粒大の大きさになること、280日後の出産時には、50cmの大きさになることなどを、具体物を用いてたいへんわかりやすく説明していただきました。また、出産時には、母親だけでなく赤ちゃんも頭蓋骨を寄せて産道を通ったりするなど必死に頑張っていることを画像等を用いながら説明していただき、子どもたちも真剣に見入っていました。

具体的でたいへんわかりやすい説明に、命の誕生の不思議さと素晴らしさ、自分の成長への感謝などを実感できた授業でした。

「生命の誕生」の学習については、理科、保健、道徳の学習等と横断的に発展統合させて、「命の大切さ」について学習を深めていくことができると考えています。



□「納税の大切さを学んだ」租税教室

12月15日（金）、役場税務課の藤田さんと黒井さんにご来校いただき「租税教室」を行いました。6年生社会科の学習で「税金のはたらき」について学習していますが、今回の出前授業を通して、より具体的に学んでいくことが目的となっています。

税金がもしなくなるとどうなるか、清水町を例にとって考え、子どもたちは、公共施設の整備を行えないため、不便な生活になることなどを学んでいました。

最後に、講師の藤田さんは、「税金は、社会の一員としての会費」であることをお話しされました。改めて、税金が様々なことに使われていることを学ぶことができた学習でした。



□豪華なバイキング給食をいただきました

おいしい学校給食を食べて元気に学校生活を送っている清水小学校の子どもたち。12月19日（火）には、バイキング給食がありました。毎年のことですが、給食センターの職員の皆さんの愛情のこもった豪華なメニュー、子どもたちは満面の笑顔で何回もお代わりをしていました。

給食会のねらいやバランスのとれた食事の大切さ、給食を作っている方々の思いなどについてのお話を聞いた後、マナーを守って楽しく給食の時間を過ごしました。

給食センターの職員の方々とのお話も良い思い出になったのではないかと思います。



□清水小学校リンクオープン

暖かい日が続いたり、降雪が続いたり、リンク作りには難しい天候の日が多いシーズンとなりましたが、リンク造成協議会の皆様様の連日の懸命な造成作業のおかげで、今年度も立派なリンクができ上がりました。

12月22日（金）の終業式にリンク開きを行い、翌日の23日（土）からリンク使用を開始することができました。

清水小学校は、周回リンクだけでなく、初心者の子どもたちも練習しやすいように、長方形の全面リンクも造っています。その分、造成の作業は多くなりますが、毎日天候とにらめっこし、その日の状態にあった適切な作業を進めていただいています。

おかげで、冬休み中においても多くの子どもたち、保護者の方々がリンクを使用しています。リンク造成協議会の皆様、ありがとうございます。

（教頭 和田 尚 史）



御影小学校

清水町子どもフォーラムに参加してきました

11月28日（火）清水町文化センターにて清水町子どもフォーラムが行われました。御影小学校からは、後期児童会長の吉國誓真さん、副会長の田中愛さん・

北出航大さんの代表3名が参加しました。各学校の発表後、「清水町の将来像を考える」というテーマについて清水高校の生徒が進行する中、意見交流が行われました。

御影小の子どもたちは緊張しながらもしっかりと発言できていました。

（教頭 川崎 広 輝）



清中の冬休み『文武両道をめざして』

12月22日(金)から24日間の冬休みに入りました。清水中学校では、この長期の休業を活用して、補的な学習、部活動を通しての基礎体力づくりに取り組んでいます。

勉強会は、学年毎に10日程度を設定し、希望者が問題集や宿題をもちよって行っています。写真は、いよいよ受験本番を迎える3年生です。



陸上部恒例の雪中トレーニング。

スノーダンプを使ってのリレーです。筋力の強化はもとより、バランス感覚も養うことができます。



12月28日(木)は、部活動の練習納めでした。各部とも最後は、学校のトイレや玄関を掃除しました。写真はテニス部。下足を置くトレイを美しくしました。

(教頭 伊澤理紀)

アイスホッケー部全国制覇を目指します!!

アイスホッケー部は、12月24日(日)に帯広で行われた全道中体連アイスホッケー大会において、全国大会の出場権を得ることができました。1月18日(木)~21日(日)に釧路市で行われる全国中体連アイスホッケー大会に北海道代表として出場します。全道大会では準決勝で苫小牧和光中に接戦の末敗れるという悔しい思いをしました。3位通過での全国大会ですが、今季初の敗戦をバネにして釧路に乗り込みます。

部員の気持ちは「全国制覇」に集中しています。インフルエンザや怪我に留意して、最高のパフォーマンスができるよう準備してほしいと思います。全町を挙げて全十勝Aチームを応援していただければ幸いです。みなさん、よろしくお願いいたします。



□冬休み自主学習会

12月22日(金)～27日(水)の平日4日間、午後からの時間を利用して「冬休み自主学習会」を実施しました。のべ100人の生徒が学習会に参加し、宿題を終わらせたり、分からないところを先生に聞いたりして有効に時間を使いました。



中学生は、各教科からある程度課題も出されますが、いかに自主的な学習ができるかが大切です。ここで家庭学習のベースをしっかり作って、残りの冬休みも自主学習に臨みます。

中には3年生も数名含まれており、午前中から学校に来て集中して学習した人もいます。休み明けからは、入試に向けた面接練習も始まります。面接のしおりに自分の考えを書き込んだり、自己アピール文を先生に相談しながら仕上げたりする姿も見られました。入試までの時間はそう多く残されていませんから、3年生はみな必死です。新学期からの準備を万全にしておくことで、心に余裕をもちたいところです。がんばれ受験生！

(教頭 宗形 真恵)

清水高等学校

校長 平野 道雄

伝統を引き継ぎ、地域との繋がりが強まった第33回合唱祭！

昨年12月9日(土)、清水町文化センター大ホールで33回目になる合唱祭を開催しました。

現在の合唱祭の元になったのは、昭和56年、学級単位で力を結集するため、学校祭の中での出し物として、学年ごとに1年生は合唱、2年生は演劇、3年生は創作物の作成に取り組むことになったものでした。その後、昭和60年に全学年で合唱に取り組むことになり、第1回合唱祭が開催されたようです。昭和60年と言えば、清水町の人た



ちによって歌われた「奇跡の第九」が昭和 55 年ですから、その5年後です。

最初の頃の合唱祭は、学校祭の期間中の9月に本校体育館で行われていましたが、本校創立 60 周年の節目の平成6年度からは清水町文化センターの大ホールをお借りするようになり、平成 10 年からはベートーベンの誕生月である 12 月に開催することになったそうです。

そうした変遷を経ながらも、課題曲として「歓喜の歌」をドイツ語で歌う伝統は今も引き継がれており、世界に誇れる、清水町と清水高校の共通の文化といえます。そうした中で行われる合唱祭は、小さい頃から「第九」の文化の中で育った町内出身生が、「第九」の合唱を通して、町外出身生に文化を広げ、さらに融合させていく貴重な行事といえます。

当日は、本校生徒に加え、保護者や学校評議員など、町内外からたくさんの方々が見えられ、観客席はかなりびっしり埋まりました。ご来場、ありがとうございました。

審査結果は、3年C組が「金賞」と今年新設の「第九賞」（課題曲の第九の評価が一番高かった学級）、江本拓真君（御影中出身）が指揮者賞、桐山莉奏さん（川西中出身）が伴奏者賞に輝き、積年の長、3年間培った団結力を発揮して3年次生が各賞を独占しました。合唱の間のアトラクションとして地域の方に協力いただいた学校祭の成果を報告し、最後に1～3年次全員で「第九」を歌うなど、学校全体の一体感を得ると同時に、清水町への感謝の気持ちを表すことができた合唱祭になりました。



【伴奏者も3年C組】



【学級担任も加わり金賞のアンコール合唱】



【指揮者賞の表彰】

今年度第3回の高大連携集中講義を実施！

昨年 12 月 22 日（金）、本校の生産技術系列農業環境分野において、酪農学園大学の山舗直子教授をお招きして、第3回になる高大連携集中講義を実施しました。

酪農学園大学との高大連携は、平成 20 年 2 月 18 日に5年間の協定を締結し、平成 20 年度からの「地域とともに学ぶ高等学校環境教育推進事業」における環境教育プロジェクト校として3年間取り組んだ後も、協定を延長しながら継続しているもので、ペケレベツ川の自然環境調査やニホンザリガニの生息環境調査などの取組を継承しながらまもなく 10 年を迎えます。

今年度の集中講義では、第1回の6月に環境学習利用地の水生昆虫の基本調査、第2回の7月に酪農学園大学合宿所に一泊しライトトラップによる昆虫の採集調査を行ってきました。

今回は、山舗教授や発生生物学研究室4年生の講義の後、本校3年次の小野寺寛君（清水中出身）ら3人のグループから、学習利用地で月一回調査したニホンザリガニの年齢構成のデータの考察などの活動報告がありました。また、その中で、同じ分野を学習する2・1年次生に向けて、ニホンザリガニの個体調査の継続と、生物多様性保全の重要性が訴えられま

した。

清水町の自然環境を活用した学習は、人と産業の在り方を考える重要な機会となっています。



【第1回：採集後の個体数カウント】



【第2回：ライトトラップによる調査】



【第3回：3年次生には修了証が授与】

全校集会での賞状伝達・表彰式

本校では、1～2ヶ月に一回のペースで行われる全校集会の折に、対外活動等で功績のあった個人や団体に対し、校長から賞状の伝達を行っています。その際、本校が取り組んでいる朝学習コンクールで優秀な成績を収めた生徒も表彰します。部の代表や個人がステージ上に並んで、全校生徒の拍手をもらいます。ここ数回は一列に並びきれず、半分ずつに分けて行われるほどです。

昨年12月25日（月）には、団体としては、三つの大会で優勝や準優勝に輝いたアイスホッケー部、高文連の図書館報コンクールで奨励賞となった図書局を、個人としては、管内大会で活躍したバトミントン部のダブルス、十勝管内老人福祉施設ボランティアキャラバン作文コンクール高校生の部で最優秀賞と優秀賞を獲得した1年次生、十勝管内高等学校読書感想文コンクール自由図書部門の優秀賞の2年次生、大仏書道大会で入選し第6回井上靖記念館青少年エッセーコンクール高校生の部の佳作も獲得した3年次生、そして、第3回全校統一朝学習コンクールの成績優秀者となった各年次生を表彰しました。

こうした機会を通して、表彰された生徒はもちろん、結果が出なくても地道に努力を重ねている生徒たちが、清水高校生としての自信と誇りをもってくれることを期待しています。



【賞状伝達・表彰①】



【賞状伝達・表彰②】

年長児と1年生・5年生が交流



5年生との交流



1年生との交流

清水ブロック幼保・小連携協議会交流部が中心になり計画している幼保・小の交流会が今年も行われました。

清水小学校5年生との交流では、11月30日（木）にゲームやお化け屋敷などで楽しい時間を過ごしました。大きいお兄さん・お姉さんたちのやさしいことばかけや親切な案内とお土産にニコニコしながら園に戻りました。

また、12月15日（金）には、同じく1年生から招待をいただき、体を動かすゲームを一緒に行いました。幼稚園で一緒に過ごした先輩たちとの交流に、小学校入学に向け、さらに期待感が高まり「楽しかった」「1年生になるのが楽しみ」などの話をしてくれました。

お父さんお母さんとお餅つき

12月14日（木）に、恒例の餅つきをしました。中川さん、櫻澤さんのお父さんが大きな杵を持つとみなし〜んとしてこねる様子を見守りました。「つきますよー」の声とともにつき始めると、“ぺったん、ぽったん”と年中・長児が掛け声をかけてくれました。つく姿に目を丸くしていた3歳児たちも「よいしょ！よいしょ！…」と大きな掛け声と共に体を前後に動かし、お父さんたちを応援してくれました。その後、園児たちも一生懸命“もちつき”をし、出来上がった餅に「すごい！」と歓声が上がりました。餅は、お母さんたちが4cm位の大きさに切り分けてくれました。初めて食べる3歳児もいましたが、自分たちでついた餅がよほど美味しかったのだと思います。“みたらし”に和えて思いのほかたくさん食べることができました。父母の方々も職員も、疲れを忘れたひと時でした。



第一保育所

ぺったんぺったんおもちつき

今年もおもちつきを遊戯場でおこないました。お家から持ってきたエプロン・三角巾マスクをつけてやる気満々の子どもたち。まずは、お手伝いのお父さんたちが力いっぱいおもちをつきます。もちをつくタイミングに合わせて「よいしょー」と掛け声をかけたりおもちつ

きの歌をうたったりして楽しい雰囲気の中で過ごしました。もち米が丸いおもちになった時やおもちが杵にくっついてのびる時には「おー」という歓声があがりました。ひまわりさんは今年が最後のおもちつきということで、杵を持つ手にも力が入っていました。この日の給食のメニューはお雑煮です。自分たちでついたおもちがお雑煮の中に入っていました。自分たちで作ったおもちが特別おいしかったみたいです。



(保育士 鈴木 寛 人)

子どもは風の子！！雪の子？！

いよいよ冬の季節がやってきました。雪が降るのを楽しみにしていた子どもたち。雪が降った後は「いつ、外に行くの？」の声が毎日続きます。朝の会で「今日は外で遊びます！」と、告げると「やったー！！」の歓声があがります。

さて、すぐに外には出られません。まずは、つなぎのジャンパー、スキーウェアを自分で着る練習からスタートです。遊んだ後の片付けの仕方（ハンガーにかけて干せる状態に）も覚えます。そして長靴を履く練習、脚絆（スノーカバー）をしっかりとつけて雪が入らない対策を十分にしようやく外へ。それでも、雪遊びが始まっている途中で「せんせー！！手袋脱げたー」「手がつめたーい！！」と大騒ぎです。「手袋は脱いだら手が冷たくなるって覚えてね」の会話を何度も繰り返し、雪遊びを快適に遊ぶ術を覚えていく子どもたち。「寒さなんて感じないのね・・・」と思いながら、真っ白な雪の中で遊ぶ姿にたくましさを感じています。この時期にしか遊べない雪遊びを楽しみます。

(保育士 菊 池 明 美)

第二保育所

かまくらでできたよ～！！

例年より早く積もった雪で大喜びの子どもたち。そう組さんみんなが協力して大きなかまくらに挑戦しました。出来上がったかまくらに小さなお友だちからも歓声があがり、さっそく交代で中に入って笑顔が満開になりました。雪あそびが大好きな子どもたちです。



リズム遊び楽しいよ！



毎週金曜日は「リズムの日」と決めて、裸足になって大きいクラスから順番に活動してします。大きい子の姿を見て、小さい子も真似をして一生懸命に身体を動かしていて可愛いです。さすがぞう組さん(年長児)のお友だちは、力強くなってきました。年長さんが年中さんや年少さんのお手本となったり、足を持って教えてくれたり頼もしい姿がいっぱい見られています。終わった後は、「疲れた～！でも楽しかった～♪」の声が続出しています。

(保育士 堀 敦 子)

御影保育所

よいしょー！よいしょー！

12月5日(火)、おもちつきがありました。「今日はおもちつきだね！」「まだ始まらないの？」と朝からウキウキの子どもたち。いよいよ、エプロンと三角巾をつけて遊戯場に集まりました。まずは役員のお父さんがおもちをついてくれました。初めておもちつきを見る子もいてとても興味津々に見つめていました。そのうち「よいしょー！よいしょー！」と遊戯場は子どもたちの元気な掛け声でいっぱいになっていました。



子どもたちも自分でおもちをつくことができ、とても楽しそうでした。その後は、つきたてのおもちを味見しました。モチモチの食感と砂糖醤油の味についついたくさん食べてしまう子どもたち。給食の雑煮もおいしそうに食べていました。

サンタさんがやってきた！！

子どもたちがとても楽しみにしていたクリスマス会が12月21日(木)にありました。保育所では玄関にリースを飾ったり、お部屋の中もクリスマス飾り付けをしたりしました。子どもたちは何日も前から「あわてんぼうのサンタクロース」などの歌を歌い、クリスマスの雰囲気を楽しみながら、楽しみに待っていました。

クリスマス会では、この日の為に作ったクリスマスの製作とクリスマスツリーが遊戯場に飾られ、そこに素敵な三角帽を被った子どもたちが集まりました。まずは、年長児によるキャンドルサービス。みんなが見ている前でドキドキの子どもたちでしたが、声を合わせて自分達で考えた願い事を言うことができました。その後は各クラスで考えた踊りや歌、手話やハンドベルを披露しました。どのクラスも練習の成果が見られ、見ている人みんなが笑顔になっていました。

シングルベルの音楽に合わせ、お父さんやお母さんと一緒に楽しくフォークダンスを踊った後、後ろからサンタさんが登場！！大喜びの子どもたちでした。それぞれのクラスで考えた



質問タイムでは、「サンタさんはお風呂に入るの？」「サンタさんはどうやってお家にプレゼントを届けるの？」とこの日にしか聞けない質問をすることができました。最後はサンタさんからプレゼントをもらい、一緒に写真撮影をしました。

サンタさんに会えて、とても嬉しそうなお子どもたちでした。

またきてね、サンタさん！

(保育士 福原千里)

教育委員会

目指せ金メダル！ 平昌冬季五輪

いよいよ間近に迫ってきた平昌冬季オリンピック。清水町から女子アイスホッケーでフルタイム御影グレッズ所属の小野粧子選手と近藤真衣選手が日本代表に選ばれました。町在住者として初めての快挙であり、とても喜ばしいことです。

1月9日（火）、小野、近藤両選手が町役場を表敬訪問されました。お二人から「金メダルを目指して精一杯頑張ってきます」という力強い決意表明がありました。阿部町長からは、「町民の大きな期待に応えて欲しい」という激励の言葉がありました。清水から熱い声援を送りたいと思います。

十勝からは、女子スピードスケートで高木美帆・高木菜奈選手も代表になりました。

高木美帆選手は幕別町の札内北小学校に在籍していました。その時から、スケートは他の選手の追隨を許しませんでした。桁違いに速かったのを覚えています。新聞のスポーツ面の見出しは、常に彼女が飾っていました。

美帆選手が5・6年生の時、私は同じ札内北小に勤務していました。当時彼女はスケートの他に、夏はサッカー少年団に所属していました。そこでも凄い才能を発揮し、男子の中でレギュラーを獲得していました。陸上大会にも出場し、何の練習もなく成果を出してしまうところが凄いところです。他にヒップホップダンスも楽しんでいました。

6年生では児童会長としても活躍していましたが、その時のエピソードです。

運動会の前日、生憎と雨になってしまいました。グラウンドの至る所に水たまりができていました。美帆さんは、駆けつけ、お父さんが用意してくれた水中ポンプでお姉さん（高木菜那さん）と一緒に水出しをしてくれました。雨が降りしきる中、ずっと作業を続けていました。明日の運動会はグラウンドの状態からして実施が難しい状況の中にもありながらも、児童会長としてやらなければならないという責任感からか、最後まであきらめないという気持ちからか、凄い子だなと感心したことを覚えています。

是非、女子アイスホッケー（スマイルジャパン）とともに、姉妹で金メダルを獲得するよう頑張っ欲しいと思います。

（教育指導幹 清 水 彦 一）



みず教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる人の中で きたえ磨く

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、みんな揃って

楽しい団らん

地域は、向こう三軒

みんな家族